

中堅・中小企業のセキュリティ課題&ゼロトラスト導入とDX推進および生成AI活用の関係性

調査設計/分析/執筆: 岩上由高

ノークリサーチ（本社〒160-0022東京都新宿区新宿2-13-10武蔵野ビル5階23号室 代表：伊嶋謙二 TEL：03-5361-7880 URL：http://www.norkresearch.co.jp）は中堅・中小企業におけるセキュリティ課題やゼロトラスト導入の実態がDX推進および生成AI活用とどのように関連しているか？の調査を実施し、その分析結果を発表した。本リリースは「2024年版 中堅・中小企業のセキュリティ/運用管理/バックアップ利用実態と展望レポート」のサンプル/ダイジェストである。

＜**販社/SierのDX提案状況や業務アプリ導入/更新のユーザ方針を考慮すると、守りのIT提案の精度も上がる**>

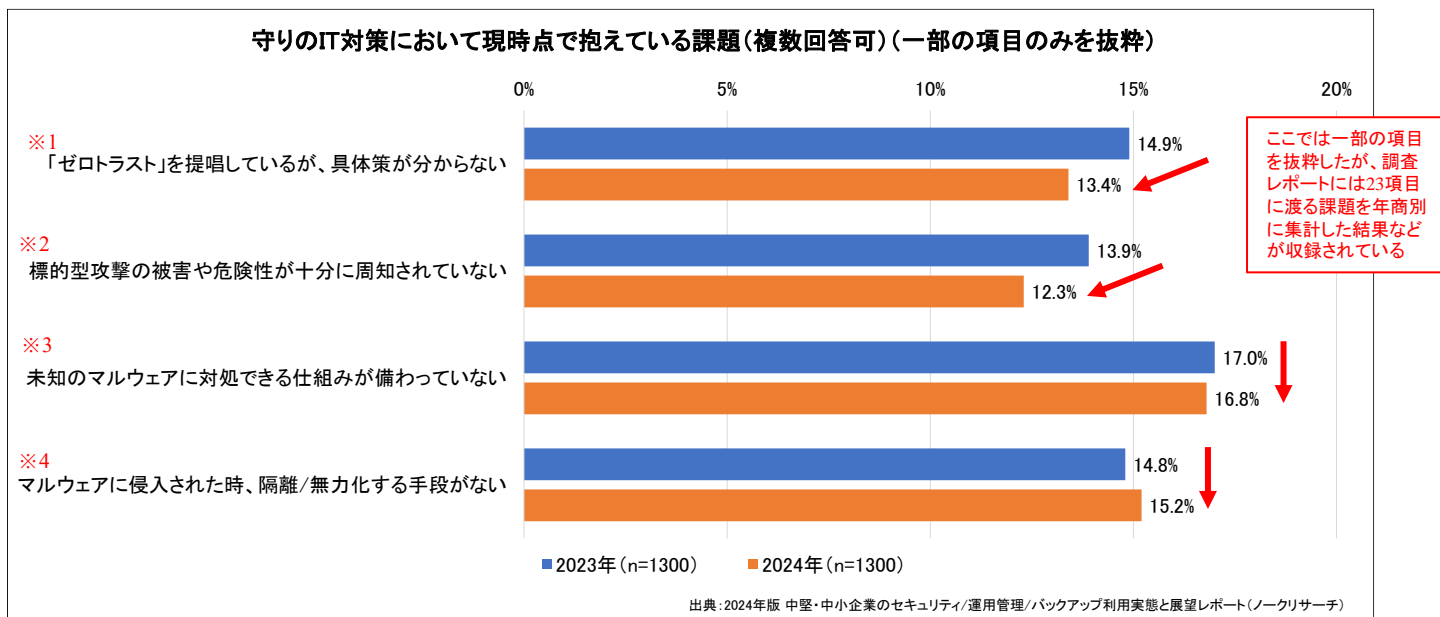
- 中堅・中小向けにもゼロデイ攻撃を前提とした「NGAV」と出口対策を含む「XDR」が不可欠
- DX推進に取り組む販社/Sierはマルウェア対策においてもユーザ評価が高い傾向にある
- 業務アプリと切り離れた生成AI活用を考えるユーザはアクセス権の局所化ニーズが高い

対象企業： 年商500億円未満の中堅・中小企業1300社（日本全国、全業種）（有効回答件数）
 対象職責： 情報システムの導入や運用/管理または製品/サービスの選定/決済の権限を有する職責
 ※調査対象などの詳細については本リリースの4ページを参照

中堅・中小向けにもゼロデイ攻撃を前提とした「NGAV」と出口対策を含む「XDR」が不可欠

セキュリティ、運用管理/資産管理、バックアップといった守りのIT対策はユーザ企業の業績に関係なく、ITを活用する上では欠かすことのできない取り組みだ。とは言え、中堅・中小企業はIT支出も限られるため、ベンダや販社/Sierとしては最大限の効果を得られる守りのIT対策を提示する必要がある。本リリースの元となる調査レポートでは有効回答件数1300社の中堅・中小企業を対象として、守りのIT対策の課題やニーズなどに関する様々な集計/分析を行っている。

以下のグラフは「守りのIT対策において現時点で抱えている課題」を尋ねた結果の一部を2023年と2024年で比較したものだ。（調査レポートでは計23項目に渡って守りのIT対策の課題を尋ねており、課題項目の一覧は次頁に掲載している）



2023年と2024年を比較すると、「ゼロトラストの具体化」(※1)や「標的型攻撃の周知」(※2)といった課題は若干減少しているものの、「未知のマルウェアへの対処」(※3)や「マルウェア侵入後の対応」(※4)といった課題はほぼ横ばいとなっていることが確認できる。そのため、中堅・中小企業向けの守りのIT対策においてもゼロデイ攻撃を前提としたNGAV (Next Generation Anti-Virus) の提案や出口対策も含めたXDR (Extended Detection and Response) の訴求が重要となってくる。次頁ではこうした守りのIT対策がDX推進や生成AI活用とどのように関連しているか？に関する分析結果の一部をサンプル/ダイジェストとして紹介している。

DX推進に取り組む販社/SIerはマルウェア対策においてもユーザ評価が高い傾向にある

本リリースの元となる調査レポートでは以下のような計23項目の選択肢を列挙して、守りのIT対策(セキュリティ、運用管理、バックアップ)における課題は何か?を集計/分析している。その中から、※1~※4の結果を2023年と2024年で比較したものが前頁のグラフである。(調査レポートには回答割合の高い課題項目に関する年商別の経年変化データも収録されている)

R4.守りのIT対策において現時点で抱えている課題(複数回答可)

<<セキュリティ全般>>

- ・「ゼロトラスト」を提唱しているが、具体策が分からない(※1)
- ・社内外で対策が異なり、安全/最新の状態が保てない
- ・管理権限が強いため、乗っ取られた時の被害が大きい
- ・メールによる情報漏えい/誤送信の対策を講じていない

<<マルウェア対策>>

- ・標的型攻撃の被害や危険性が十分に周知されていない(※2)
- ・未知のマルウェアに対処できる仕組みが備わっていない(※3)
- ・マルウェアに侵入された時、隔離/無力化する手段がない(※4)
- ・サーバ導入が必須、もしくは端末側の処理が重い/遅い
- ・運用/保守のアクセス回線はマルウェア対策が不十分
- ・スマートデバイスの対策が不十分、またはPCと異なる

<<アカウント管理>>

- ・特権/管理アカウントの悪用を防ぐ施策を講じていない
- ・未使用のアカウントが削除されずに放置されている
- ・システム毎に複数のアカウントが散在/乱立している
- ・生体認証や多要素/二段階認証に対応できていない

<<バックアップ/リストア>>

- ・バックアップを復元できるかの検証を実施していない
- ・LANなどを介してバックアップが消される恐れがある
- ・システムやデータを安全なクラウド上に保管できない
- ・保管した大量データを容易に検索/参照できない

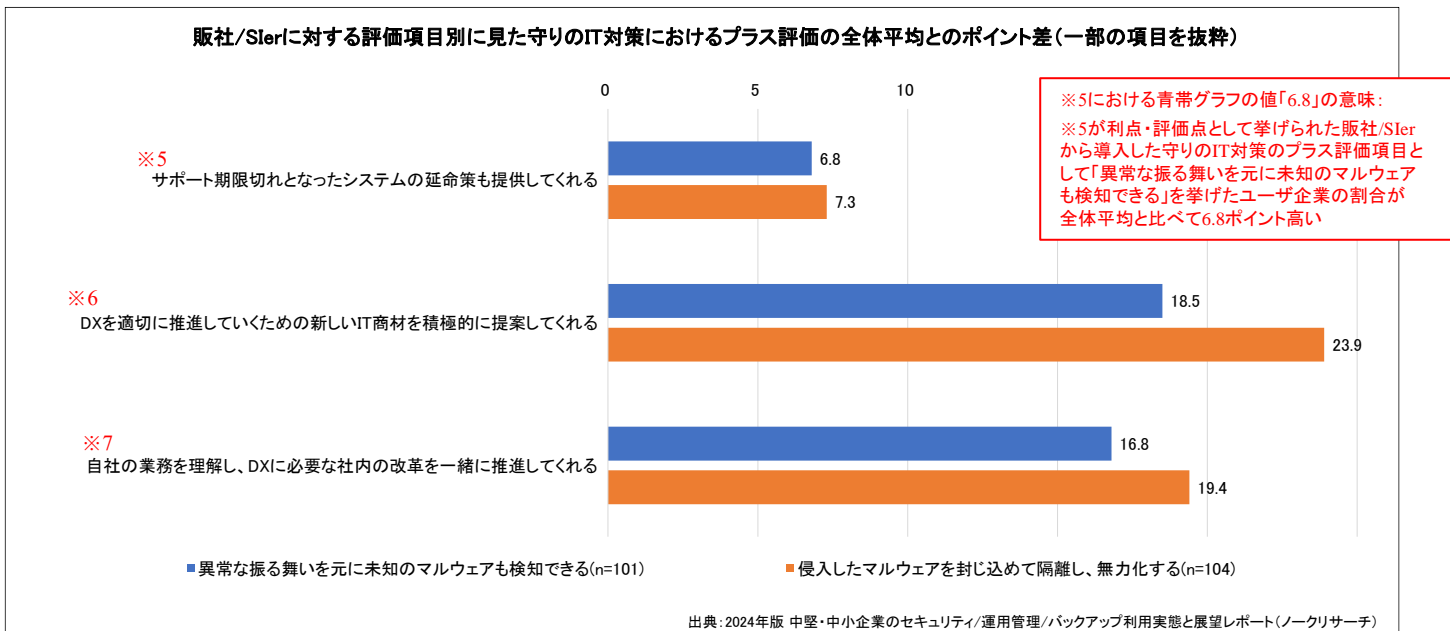
<<運用管理/資産管理>>

- ・端末の不正操作や故意の情報漏えいを防止できない
- ・OS更新の現状が把握できず、管理/制御もできない
- ・脆弱性やサポート期限への対策を講じられていない
- ・ライセンスの利用状況を把握しておらず、無駄が多い
- ・複数のネットワーク機器を適切に管理/保護できない

<<その他>>

- ・その他:
- ・課題は全くない

さらに、本リリースの元となる調査レポートでは姉妹編レポート「2024年版 中堅・中小企業のIT支出と業務システム購入先の実態レポート」(https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP_user_rep.pdf)との横断的な分析も行っている。以下のグラフは横断分析の一例として、守りのIT対策を導入した販社/SIerの評価項目別に守りのIT対策に関して評価/満足している機能や特徴がどのように変わってくるか?を全体平均とのポイント差で表したものだ。



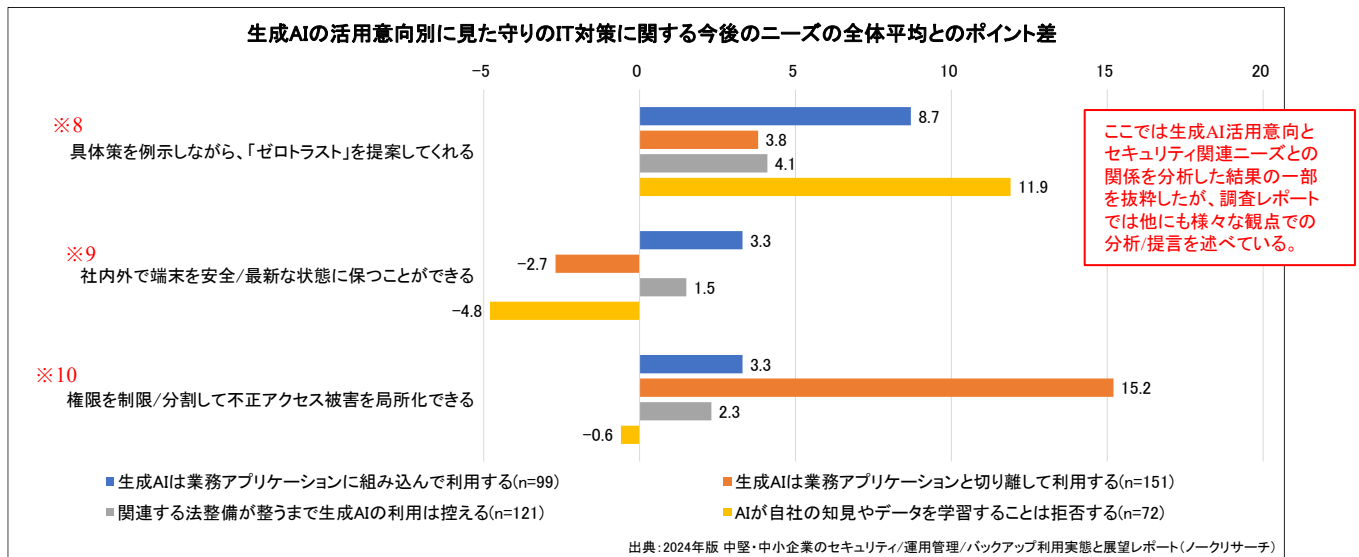
上記のグラフに関する詳細は次頁で述べるが、DXの推進(新たなIT商材の提案やユーザ企業における社内改革の支援)で高い評価を受けている販社/SIerは「未知のマルウェアへの対処」や「マルウェア侵入後の対応」でプラスの評価を受けていることがわかる。

業務アプリと切り離れた生成AI活用を考えるユーザはアクセス権の局所化ニーズが高い

前頁の上段で守りのIT対策における課題項目を列挙したが、調査レポートではそれらの対となる形で守りのITに関して評価/満足している機能や特徴についても尋ねている。その結果と守りのIT対策を導入した販社/Sierに対する評価との関連を分析したものが前頁下段のグラフである。「サポート期限切れとなったシステムの延命策も提供してくれる」という観点で評価されている販社/Sierから導入した守りのIT対策について、ユーザ企業が「異常な振る舞いを元に未知のマルウェアも検知できる」や「侵入したマルウェアを封じ込めて隔離し、無力化する」といったプラス評価を下した割合は全体平均と比べて各々6.8ポイント、および7.3ポイント高い値に留まる。つまり、システムの現状を維持する取り組みだけでは守りのIT対策におけるユーザ評価を高めることは難しいことがわかる。

一方、「DXを適切に推進していくための新しいIT商材を積極的に提案してくれる」や「自社の業務を理解し、DXに必要な社内の改革と一緒に推進してくれる」のように、一步踏み込んだDX推進の取り組みで評価されている販社/Sierでは「異常な振る舞いを元に未知のマルウェアも検知できる」と「侵入したマルウェアを封じ込めて隔離し、無力化する」をプラス評価として挙げる割合が全体平均と比べて16ポイント超～24ポイント弱まで高まる。したがって、「新たなIT商材の提案」や「ユーザ企業における社内改革の支援」といった一步踏み込んだDX推進を進めることは中堅・中小市場における守りのIT対策を強化していく上でも重要な取り組みとなってくる。

本リリースとなる調査レポートでは、もう1つの姉妹編レポート「2024年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート」(https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_rep.pdf)との横断的な分析も行っている。同姉妹編レポートでは業務アプリケーション導入/更新における様々な方針を尋ねており、本リリースの元となる調査レポートではそうした方針と守りのIT対策に関する今後のニーズがどのように関連しているか？の横断分析を行っている。以下のグラフはその中から、生成AIの活用意向と守りのIT対策に関する今後のニーズを分析した結果を抜粋したものだ。



ここでは生成AI活用意向とセキュリティ関連ニーズとの関係を分析した結果の一部を抜粋したが、調査レポートでは他にも様々な観点での分析/提言を述べている。

「関連する法整備が整うまで生成AIの利用は控える」(灰帯)といった生成AI活用を静観するユーザ企業では※8～※10の3つのニーズ項目いずれも全体平均との差が5ポイント未満に留まり、守りのIT対策についても現状維持志向が強いことがわかる。一方で、「生成AIは業務アプリケーションに組み込んで利用する」(青帯)と「生成AIは業務アプリケーションと切り離して利用する」(橙帯)を比べると、橙帯では「権限を制限/分割して不正アクセス被害を局所化できる」(※10)の全体平均との差が15.2ポイントと大きい。つまり、業務アプリと分離して生成AIを活用しようとするユーザ企業には「アクセス権限の精緻化による被害の局所化」を訴求することが有効となる。さらに「AIが自社の知見やデータを学習することは拒否する」(黄色)といった方針のユーザ企業では「具体策を例示しながら、「ゼロトラスト」を提案してくれる」(※8)の全体平均との差が11.9ポイントと高い。これは生成AI活用に慎重なユーザ企業はセキュリティ意識が高いため、ゼロトラストへの関心も相対的に高いことを示している。このように守りのIT対策を訴求する際はユーザ企業における業務アプリケーション導入/更新の方針も考慮することが大切だ。ここでは生成AI活用との関連性を述べたが、調査レポートでは他にも様々な観点から守りのIT対策の訴求ポイントを分析し、今後に向けた取り組みを提言している。次頁では本リリースの元となる調査レポートの詳細を案内している。

本リリースの元となる調査レポート

『2024年版 中堅・中小企業のセキュリティ/運用管理/バックアップ利用実態と展望レポート』

守りのIT対策における課題&ニーズ、ベンダ社数シェア、支出額に加えて、守りのIT対策を提案する販社/SIerに対する評価や業務アプリケーション導入/更新における方針との関連性についても分析

【対象企業属性】(有効回答件数:1300社、調査実施期間:2024年7月~8月)

年商:	5億円未満 / 5億円以上~10億円未満 / 10億円以上~20億円未満 / 20億円以上~50億円未満 / 50億円以上~100億円未満 / 100億円以上~300億円未満 / 300億円以上~500億円未満
従業員数:	10人未満 / 10人以上~20人未満 / 20人以上~50人未満 / 50人以上~100人未満 / 100人以上~300人未満 / 300人以上~500人未満 / 500人以上~1,000人未満 / 1,000人以上~3,000人未満 / 3,000人以上~5,000人未満 / 5,000人以上
業種:	組立製造業 / 加工製造業 / 建設業 / 卸売業 / 小売業 / 流通業(運輸業) / IT関連サービス業 / 一般サービス業 / その他:
地域:	北海道地方 / 東北地方 / 関東地方 / 北陸地方 / 中部地方 / 近畿地方 / 中国地方 / 四国地方 / 九州・沖縄地方
IT管理/運用の人員規模(12区分):	IT管理/運用を担う人材は専任/兼任のいずれか? 人数は1名/2~5名/6~9名/10名以上のどれに当てはまるか?
ビジネス拠点の状況(5区分):	オフィス、営業所、工場などの数は1ヶ所/2~5ヶ所/6ヶ所以上のいずれか? ITインフラ管理は個別/統一管理のどちらか?
職責(2区分):	情報システムの導入/運用/管理の実担当者または選定/決裁の権限者

【分析サマリ(調査結果の重要ポイントを述べたPDFドキュメント)の章構成】

第1章: 守りのIT対策を実施している箇所と内容

守りのIT対策を実施する箇所として、エンドポイント(社内 or 社外)、サーバ/ストレージ(社内 or 社外)、社外エンドポイントと社内の通信、クラウドサービスと社内の通信の計6項目を提示し、対策の実施内容(=手段)としてパッケージ、サービス、アウトソース、アプライアンス、H/Wの付属機能、OSの付属機能のどれを講じているか?を尋ねた結果を集計/分析。

第2章: 守りのIT対策に関して評価/満足している機能や特徴

「異常な振る舞いを元に未知のマルウェアも検知できる」、「特権/管理アカウントは運用条件を厳しく設定できる」など、導入済みの守りのIT対策について評価/満足している事柄を計23項目に渡って尋ねた結果を集計/分析。

第3章: 守りのIT対策において現状で抱えている課題

「標的型攻撃の被害や危険性が十分に周知されていない」、「バックアップを復元できるかの検証を実施していない」など、導入済みの守りのIT対策における課題を計23項目に渡って尋ねた結果を集計/分析。

第4章: 守りのIT対策の製品/サービスが今後持つべき機能や特徴

第2章と同様の計23項目を列挙し、守りのIT対策を担う製品/サービスに対する今後のニーズ(機能や特徴)は何か?を集計/分析。

第5章: 守りのIT対策を担う販社/SIerの評価との関連性

導入済みの守りのIT対策の委託先/購入先となった販社/SIerのプラス評価/マイナス評価と守りのIT対策における満足点&課題との関連性を分析。(例、「DX提案に積極的な販社/SIerはゼロトラストの導入提案においても評価が高いのか?」)

第6章: 業務アプリケーション導入/更新における方針との関連性

「ペーパーレス化の推進」「自動化による業務効率改善」「生成AIの利用」など、業務アプリケーション導入/更新における様々な方針と守りのIT対策における今後のニーズとの関連性を分析。

第7章: 守りのIT対策の開発元(ベンダ)の導入社数シェア

6カテゴリ、計56項目に渡る守りのIT対策の開発元(ベンダ)を列挙して導入社数シェアを集計/分析。

第8章: 守りのIT対策における費用

守りのIT対策に対して許容可能な年額合計費用を尋ねた結果を集計/分析。

レポートの更なる詳細については
下記レポート案内をご参照ください

【発刊日】2025年1月20日 【価格】225,000円(税別) 【レポート案内】https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024Sec_user_rep.pdf

ご好評いただいている既存の調査レポート 各冊225,000円(税別)

『2024年版 中堅・中小企業のITアプリケーション利用実態と評価レポート』

従来の社数シェアやユーザ評価に加えて、各アプリ分野の重要トピックに関する新たな分析/提言まで網羅した進化版レポート

【レポートの概要と案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_rep.pdf

【リリース(ダイジェスト)】

グループウェアやWeb会議を起点とした生成AIの普及の第一歩

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_gw_rel.pdf

「コンポーザブルERP」は中堅・中小向けERP市場にも広まるか？

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_erp_rel.pdf

中堅・中小向け会計管理パッケージと経費精算サービスの役割分担

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_acc_rel.pdf

ワークフロー拡販に必要な視点は年商&運用形態+ERP導入状況

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_wf_rel.pdf

SaaSが中堅・中小向け生産管理システムにもたらず変化

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_ppc_rel.pdf

販売・仕入・在庫管理はシェア差が縮小、CRM更新が新たな商機

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_sbc_rel.pdf

勤怠管理を起点とした中堅・中小向け人事給与システムの進化

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_hrw_rel.pdf

中堅・中小向けBI導入提案に不足している視点

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_bi_rel.pdf

法整備や経済安全保障が中堅・中小生成AI活用に与える影響

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_p0_rel.pdf

セールスフォース一強状態のCRM市場に変化は起きるか？

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_crm_rel.pdf

文書管理・オンラインストレージサービス市場の新たな成長段階

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024itapp_dm_rel.pdf

『2024年版 中堅・中小企業のIT支出と業務システム購入先の実態レポート』

80社超に及ぶIT企業の社数シェア、商材ポートフォリオ、プラス評価/マイナス評価に加えてIT導入で得られる17種類の成功体験に基づいた今後有望なITソリューション提案を提言、さらには年間IT支出の市場規模(年商別/業種別/地域別)も網羅

【レポートの概要と案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP_user_rep.pdf

【リリース(ダイジェスト)】 17種類に渡る「ユーザ企業における成功体験」から導かれるIT導入提案のキーポイント

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP_user_rel1.pdf

中堅・中小企業における企業属性(年商/業種/地域)&商材別のIT支出市場規模

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP_user_rel2.pdf

今後伸びるDX分野およびIT企業における成功体験スコアとDX比率の関係

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SP_user_rel3.pdf

『2024年版 サーバ&エンドポイントにおけるITインフラ導入/運用の実態と展望レポート』

サーバはクラウドファーストの加速とオンプレ回帰のどちらに進むのか？PCでWindows 11移行を加速させるための施策とは？

【レポートの概要と案内】 https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rep.pdf

【リリース(ダイジェスト)】

中堅・中小ハイブリッドクラウドの適用状況と解決すべき課題

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel1.pdf

中堅・中小サーバ環境におけるクラウド移行とオンプレ回帰の実態

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel2.pdf

HCI(ハイパーコンバージドインフラ)の導入状況、社数シェア、導入障壁

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel3.pdf

中堅・中小サーバ市場(オンプレミス&クラウド)のシェア動向

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel4.pdf

Windows 11への移行を阻害している要因とその打開策

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel5.pdf

中堅・中小エンドポイント環境のOSと端末/サービスのシェア動向

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel6.pdf

中堅・中小ストレージ環境の形態選択と活用課題の動向

https://www.norkresearch.co.jp/pdf/2024SrvPC_user_rel7.pdf

本データの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。

引用・転載のポリシー: <http://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>

当調査データに関するお問い合わせ

NORKRESEARCH

株式会社 ノークリサーチ 担当: 岩上 由高
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-13-10 武蔵野ビル5階23号室
TEL 03-5361-7880 FAX 03-5361-7881

Mail: inform@norkresearch.co.jp

Web: www.norkresearch.co.jp

Nork Research Co.,Ltd